

寺社資料の電子化・共有による 新たな研究の展望と課題

信州大学 渡辺匡一

白水阿弥陀堂(いわき市)

1. 寺院資料と日本文学
2. 寺社資料の調査・研究方法
3. 寺院資料からわかること(室町時代)
 - 3-1. お坊さんは、よく動く(その1~3)
 - 3-2. 資料も、よく動く(その1、2)
4. 知のネットワークの形成と展開(15-17世紀)
5. 資料の電子化・共有による研究の展望と課題

1. 寺院資料と日本文学

寺社資料には

1. 書籍(典籍)

文学

2. 文書(書状)

歴史学

3. 絵画

美術史

4. 仏具

美術史

全部研究
の対象に
しますけど

など、様々なものがありますが、

今回は、主に書籍調査に関わるお話をしたいと思います。

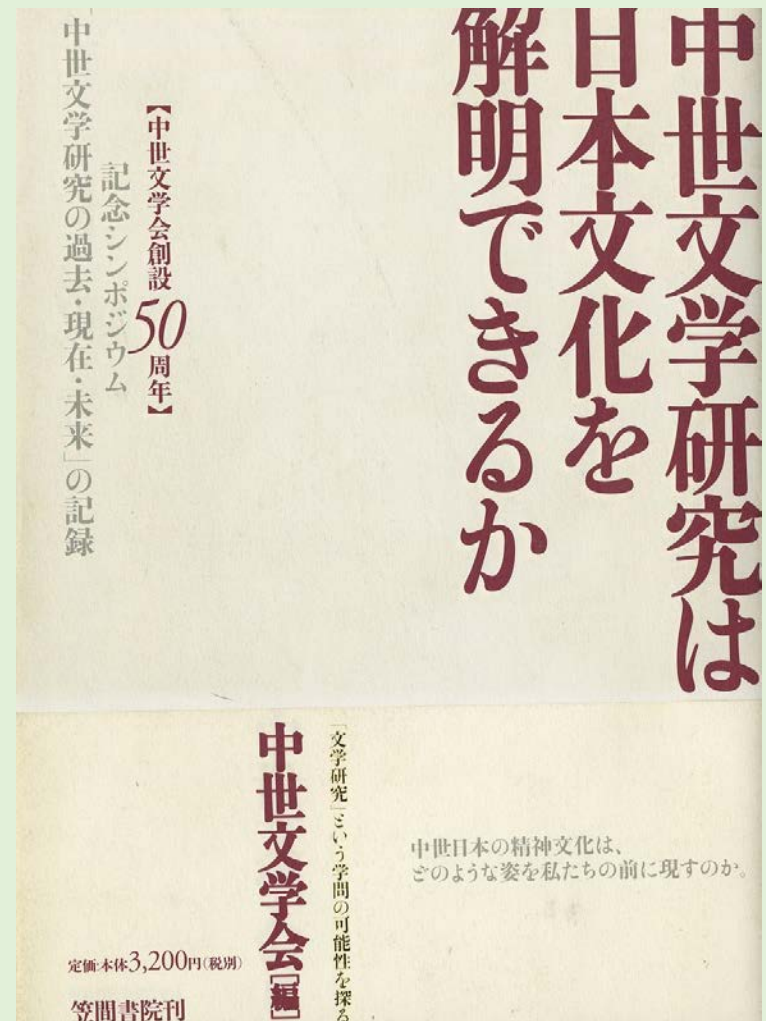
寺社の資料をなぜ文学研究が・・・

**『源氏物語』や『平家物語』、和歌や俳句
とかじゃなく・・・**

**いいえ、立派な
文学研究です**

研究が盛んになったのは、
1980年代からですが、
特に中世文学では、研究
の重要なジャンルとして、
50周年記念シンポジウム
(2005年)では、
第1分科会として討議が行
われました。
私も、発表者として、
研究モデルについて、提
案をしました。

日本は仏教国だったわけですから、山ほど仏教関係
の資料があるわけですから、
研究しない手はないですよ。



日本には、長い歴史の中で、たくさんの書籍が生み出されてきたわけですから、
「何かに限って」、「これは文学」「これは文学じゃない」
って変ですよ

日本語で書かれた(話された)ものは、
みんな「日本文学」で良いのです。

※国立国会図書館デジタルコレクション、
素晴らしいです。「近代デジタルライブラリー」の頃
からのユーザーです。
「こんな本があるのか」って、いつも驚いています。
ライブラリーで閲覧できることによって、新たな研究
の裾野は、確実に広がっていきます。

2. 寺社資料の調査・研究方法

関わってきた主な寺院調査

1. 善通寺(香川県善通寺市) 1989～2013
真言宗善通寺派本山 ←国文学研究資料館の調査
2. 宝聚院(福島県いわき市) 1999～2018
新義真言宗灌頂道場・棚倉藩の祈禱寺院
3. 佛法紹隆寺(長野県諏訪市) 2003～2019(予定)
新義真言宗灌頂道場・高島藩の祈禱寺院
4. 如来寺(福島県いわき市) 1999～2016
浄土宗名越派本山、談義所(室町時代後期まで)
5. 御嶽神社(長野県王滝村) 2006～2019(予定)

灌頂道場・・・お坊さんになるために、学問・修行する寺院(真言宗)
談義所・・・お坊さんが勉強をする寺院(天台・浄土・日蓮宗)

古いお寺だから資料があるかというと、

そうではありません

灌頂道場だとか、談義所だとか、
お坊さんが勉強するための寺院にしか、
資料は残されていないのです。

調査の方法は、

悉皆調査です

寺社が所蔵する、すべての文字（絵画）資料
の情報を取り出していきます。

作品名・題名・料
紙・装幀・数量・成
立年代・写刊・著
者・書写者・出版
社・寸法・所持者
などをカードにとり、
見直し作業の後、
CSV形式でデータ
化します。

仏法紹隆寺

区分	所属者	収番号	135
作品名	元亨釈者和解	外題	元亨釈者和解
内題	元亨釈者	表紙	元亨釈者和解
柱題	元亨釈者	尾題	元亨釈者和解
数量	1冊	料紙	鳥の子・薄紙・綴・糊合・他
装幀	折帖・結葉・列帖	数量	1冊
写	写人・録活・木活・活版	数量	1冊
著	釈者	数量	1冊
書	書写者・書師名	数量	1冊
寸法	縦 26.5 cm 横 19.0 cm	寸法	縦 21.9 cm 横 19.1 cm
一面行数	12行	一行字数	25字
丁数	857丁	丁数	857丁
本文	同紙(墨・朱)	本文	同紙(墨・朱)
書入	別紙(墨・朱)	書入	別紙(墨・朱)
所蔵者番号	135	所蔵者番号	135

調査年月日: 2008年2月9日 記録者: 加藤夏希

収番号 135

外題	元亨釈者和解	内題	元亨釈者
表紙	元亨釈者和解	尾題	元亨釈者
柱題	元亨釈者	数量	1冊
装幀	折帖・結葉・列帖	数量	1冊
写	写人・録活・木活・活版	数量	1冊
著	釈者	数量	1冊
書	書写者・書師名	数量	1冊
寸法	縦 26.5 cm 横 19.0 cm	寸法	縦 21.9 cm 横 19.1 cm
一面行数	12行	一行字数	25字
丁数	857丁	丁数	857丁
本文	同紙(墨・朱)	本文	同紙(墨・朱)
書入	別紙(墨・朱)	書入	別紙(墨・朱)
所蔵者番号	135	所蔵者番号	135

調査年月日: 2008年2月9日 記録者: 加藤夏希

仮番号	本番号	書名	書名訓	分類	外題(表紙)	内題	柱題	尾題	表紙(色等)	見返し題/扉題	料紙	装丁	数量(全巻)	版種
2	阿字秘歌	アジヒシヤク			阿字秘歌(漢・原)	阿字秘歌	阿字秘歌	阿字秘歌	刊 濃黄	ナシ	襷	袋綴	3(3)	整版
3	阿字秘略註	アジヒシヤクチュウ			阿字秘略註(漢・原)	阿字秘略註	阿字秘略註	阿字秘略註	刊 薄黄	ナシ	襷	袋綴	1(1)	整版
4	要法授訣抄	ヨウホウジュクショウ			要法授訣抄(漢・原)	要法授訣抄	ナシ	要法授訣抄	刊 薄青	ナシ	襷	袋綴	2(3)	
5	標註十八史略正文	セイブツ			標註十八史略正文(漢・原)	標註十八史略正文	標註十八史略正文	標註十八史略正文	刊 濃黄	ナシ	襷	袋綴	7(7)	整版
6	即身義講題	ソクシンギコウエン			即身義講題(漢・原)	即身義講題	ナシ	即身義講題	写 着色ナシ	ナシ	襷	袋綴	2(2)	
7	南郭先生文集	ナンカクセンセイブンシュウ			南郭先生文集(漢・原)	南郭先生文集	南郭集	南郭先生文集	刊 薄茶	ナシ	襷	袋綴	14(40)	整版

成立年代	編著者(校閲者等も含む)	書写者or書肆	奥書・刊記など	書 型	匡 郭	一面行数	一行字数	本 文	什物印	有瑞墨印	他蔵書印	旧蔵者	その他
			御本記云/先年之頃依公雅法印懸請謹鈔兩巻僅以上巻奉/授法印畢其後他事無餘未及再治仍弘安四年七/月下旬開草毫本加治定畢願以兩巻鈔記之功必/為三身証得之因耳/金剛仏子 頼瓊生年五十六弘安四/年十二月二十賜此御鈔聊拜見之夜有夢想其/趣者或僧楚忽覽此鈔之時傍人云畢尔之披覽定/無其詮歟(云/云)/又傍有書宿僧告云縱雖不祥義理必有益況於/思惟習乎(云/云)忽聞此言結縁有馮信/心銘肝之間夢覺了誠是秘密之奥旨達冥虛甚/深之鈔記感靈夢歟豈不可貴矣 金剛寶仙覺記/弘安五年(壬午)七月二十四日夜(丑刻)感夢云於洛/中入成享(底本奥書)。宝暦十庚辰年十一月上求菩提下化衆生為因緣求此鈔畢/金剛仏子俊応(識語・墨書・下巻末)	26.2 × 18.3	21.1 × 15.5	10	20漢	文末(上)、 1才(中・下)	ナシ	ナシ	俊応・有瑞	「俊応」(巻上表紙右下・朱書)。	
江戸時代前期	頼瓊	未詳											
宝永7(1710)・閏8	英嶽	前川茂衛門/前川権兵衛(名前上部「洛陽」)	宝永七閏八月吉日/洛陽書林前川茂衛門/同姓権兵衛	26.4 × 18.7	16.4 × 14.6	12	14漢	ナシ	1才右下	ナシ	有瑞		巻中・下、「鋭心」(墨書・表紙右下)。「附属/有中」(表紙右下・朱書)
江戸後期	陸雲	未詳	ナシ	24.0 × 17.0	ナシ	10	18漢	ナシ	ナシ	ナシ	鋭心・有中		
明治10(1877)・11・15	渡井量蔵	内藤伝右衛門	版權免許明治九年九月十三日/出版明治十年十一月十五日/標註者山梨県平民/渡井量蔵/山梨県第一区若松町八十二番表七十二番地/出版人同/内藤伝右衛門/山梨県第一区常盤町四番地/売弘同支店/東京第一大区小石町十軒店五番地	25.9 × 18.2	18.8 × 13.8	11	18漢	ナシ	ナシ	ナシ	松橋/有実(朱印・外題下)	有実	

3. 寺院資料からわかること(室町時代)

調査・研究を行ってきた、
宝聚院(いわき市)と佛法紹隆寺(諏訪市)の
資料を中心に、見ていくことにしましょう。

両寺院ともに、京都醍醐寺を本山としていました



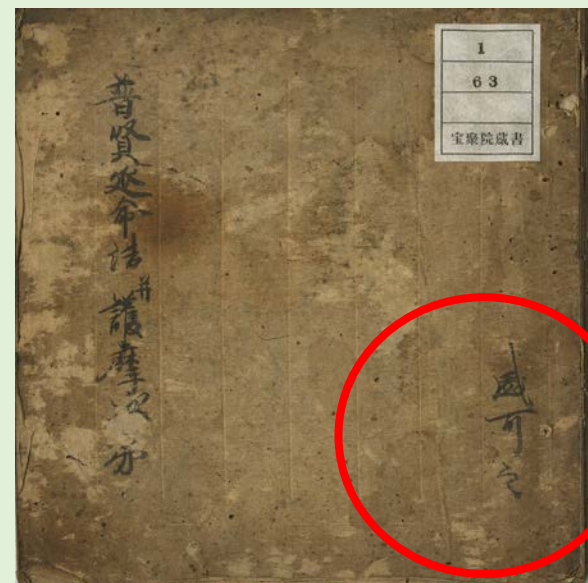
宝聚院



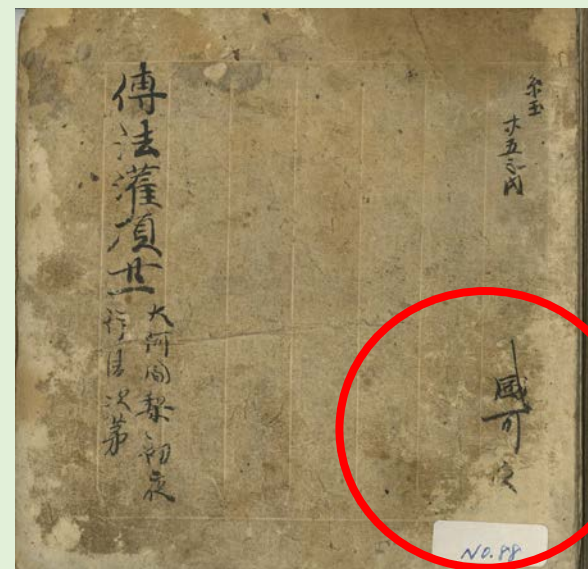
佛法紹隆寺

3-1. お坊さんは、よく動く(その1)

盛可は、
佛法紹隆寺第20世(1660-1674)、
薩摩国(鹿児島県)出身です。
なぜか、盛可の書写した書物が、宝
聚院に残されています。
また、盛可の書写した本のなかには、
磐城薬王寺の第8世純瑜作
『糸玉集』もあります(佛法紹隆寺所
蔵)。
盛可は、いわきにいた可能性があります。



宝聚院蔵



仏法紹隆寺蔵



盛可

佛法紹隆寺

薬王寺
宝聚院

?

3-1. お坊さんは、よく動く(その2)

ともに、佛法紹隆寺が所蔵する資料です。深瑜は、磐城薬王寺の第7世です。「許可」は、先生である深瑜が、弟子である、宥尊・宥誉に授けた、卒業証書のようなものです。薬王寺で教えを受けた二人は、やがて佛法紹隆寺へとやって来たのです。

『深瑜両部印可許可』奥書

(深瑜↓宥尊)

右於奥州岩城薬王寺道場両部密印奉授也
／天文九年庚子(一五四〇)霜月六日／伝授大阿闍梨権大僧都法印深瑜

『深瑜印可』奥書

(深瑜↓宥誉)

右於奥州岩城薬王寺道場両部密印奉授也
／天文九年庚子霜月六日／伝授大阿闍梨権大僧都法印深瑜



宥尊

薬王寺

佛法紹隆寺

宥營

3-1. お坊さんは、よく動く(その3)

宝聚院の縁起の一部です。宥性は、16世紀末に、宝聚院の住職だった人です。

縁起によると、宥性は、もともと大和国(奈良県)の出身で、宝聚院に来住する前は、諏訪の神宮寺にいたと記されています。

『宝聚院縁起並代々略記』「宥性」
鏡(宥鏡)永禄四年寂、宥性ニ伝フ。性ハ和州ノ人、霜露ノ忽ニ消ヲ見テ、自ラ出家ス。初メ天台ニ歸ス。教ヲ叡山ニ学ブ。而シテ謂ク「教ハ只々教也。行ニ就ニ如ザル也」。南都ニ還テ、毘尼ヲ於西大ニ勤ム。泪テ菩薩ノ之興正遺書ヲ閱スルニ、深ク真言ニ入ル。亦謂ク「沙門雲水ヲ以テ称ス。当サニ不住ヲ行トスベシト、古聖ノ力游スル。三国比隣ノ如。寧口絶繫シテ、日ノ傾ヲ俟シヤ乎。遍歴シテ 不_レ輟ニ。信州諏訪ノ神宮寺ニ寓シテ、登壇散華ス。稍々好相ヲ得タリ。当国ニ下テ、因縁別有、葉ヲ於鏡ニ受。

宥性

宝聚院

諏訪神宮寺

延暦寺

西大寺

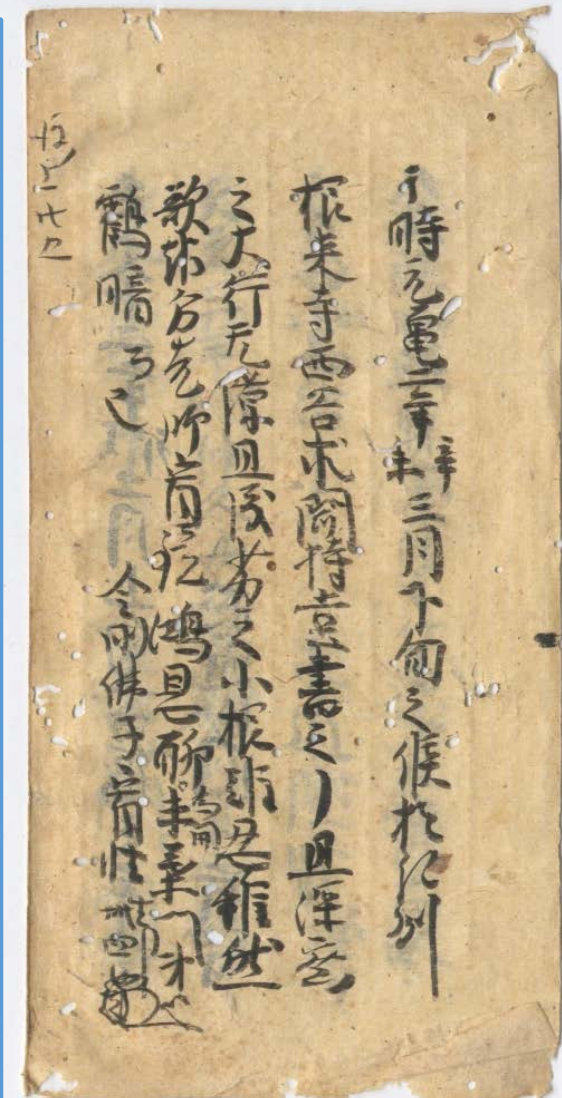


3-2. 資料も、よく動く(その1)

宝聚院の資料です。
『二十四帖』は、大学僧、印融が、**高野山**で著したものです。
しかし、師匠の命を受けた宥性は、**根来寺**で『二十四帖』を書写しました。
当時、根来寺は、多くの学僧たちの集う、真言宗のメッカだったのです。

『二十四帖』奥書

于時元龜二年辛未（一五七一）三月下旬之候
於紀州／根来寺西谷求聞持堂書之了且深密／
之大行無隙且浅劣之小根難忍雖然／欲報分先
師宥鏡鴻恩聊為開末義門弟鸛／暗而已金剛仏
子 宥性生年四十四（花押）



『二十四帖』

宝聚院

高野山

根来寺



3-2. 資料も、よく動く(その2)

宝聚院蔵の資料です。
これによると、
この資料は、
大和→尾張→
伊勢→尾張→
高野山→武蔵
→山城→陸奥
の各寺院で書
写され、宝聚
院へ伝来しま
した。

『御遺告秘訣』奥書

本書三半紙草紙也為類聚和書之応保二壬午年三月五日沙門実運安貞二戊子年六月八日以御本書写畢成賢建長五癸丑年二月八日以御本書写畢沙門憲深六二永享五壬子年十月二十四日於室生寺莊嚴院傳授之夜即書之律師嚴海宝徳二庚午年十月四日於尾州律島天王護摩当書写之金資真慶宝徳四壬申四月十九日於勢州香取郷栖院令書写之法印宥覚天正四月丙子年八月十二日於尾州大須真福寺宝性院師主法印以御本書之僧都頼意元和二年二月二十四日書写之士州青龍寺住於高野山万日当造筆養精正徳二天乙酉六月十三日二階堂高祖院阿闍梨秀盛書之慶安五壬辰五月十七日高祖院秀盛法印傳授砌以御本書写之良栄慶安五壬辰年六月十七日書写之良秀寛文四甲辰四月十三日於武州高幡テ良秀法印傳授之砌以御書本テ写之尊海寛文六丙午年七月晦日落東於智積院テ尊海本テ書写畢下総国行徳堯賢寛文八戊申年五月二十日於東寺智積院下総行徳堯賢本書写畢奥州相馬住空亀書之寛政八馬年五月十一日於奥州仙台鏡傳ヨリ護遺光雅之

『御遺言秘訣』



お坊さんたちが、各地の寺院を渡り歩いたり

本が、各地の寺院で、書写されたりする



知（識）が、各地へ広まり、醸成されていく
ということになります。

本寺・末寺の関係も合わせて、考えていく
ことにしましょう。

4. 知のネットワークの形成と展開(15-17世紀)

最近までに明らかになった、知の流れを、
本寺(醍醐寺)と末寺(佛法紹隆寺・宝聚院)の視点で、紹介します。

醍醐寺

佛法紹隆寺

宝聚院

地図を見ていると

こんなふうに、伝わっ
ていきそうですね

調べていくと、そうはなりませんでした



15世紀頃

宝聚院

佛法紹隆寺

醍醐寺

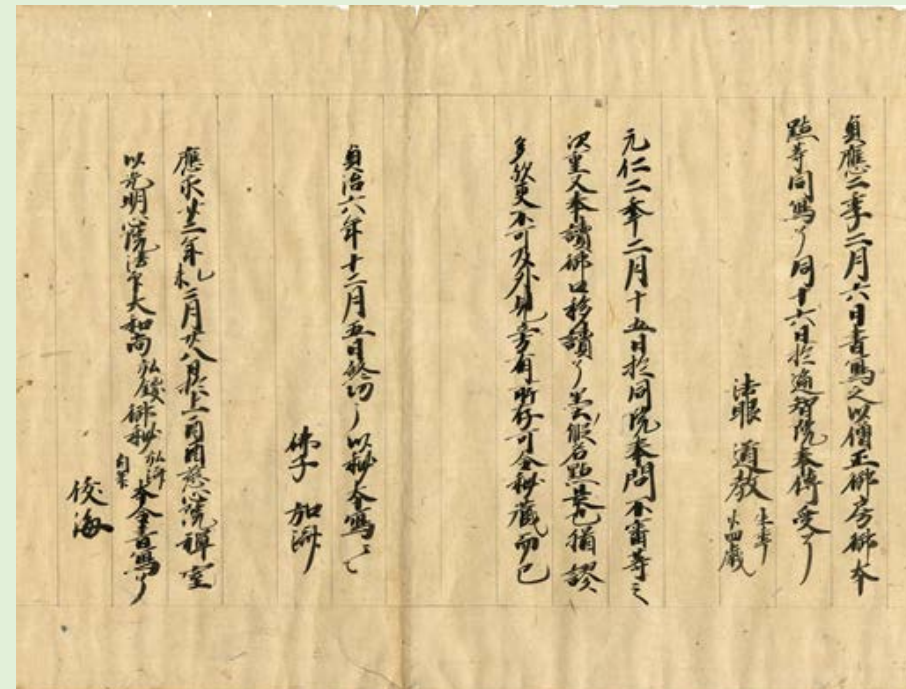
醍醐寺の教えは、まず、下野
(栃木県)で盛んになります



中心となったのは

俊海(14-15世紀)というお坊さんでした。
幼い頃に醍醐寺に入山し、修行に励みます。
後、何度も下野国へと通い布教に努めた結果、
下野国は、真言宗醍醐寺派の一大拠点となったのでした。

佛法紹隆寺の資料では、
「**関東元祖**」と記されています。



俊海自筆『御遺告』(佛法紹隆寺蔵)

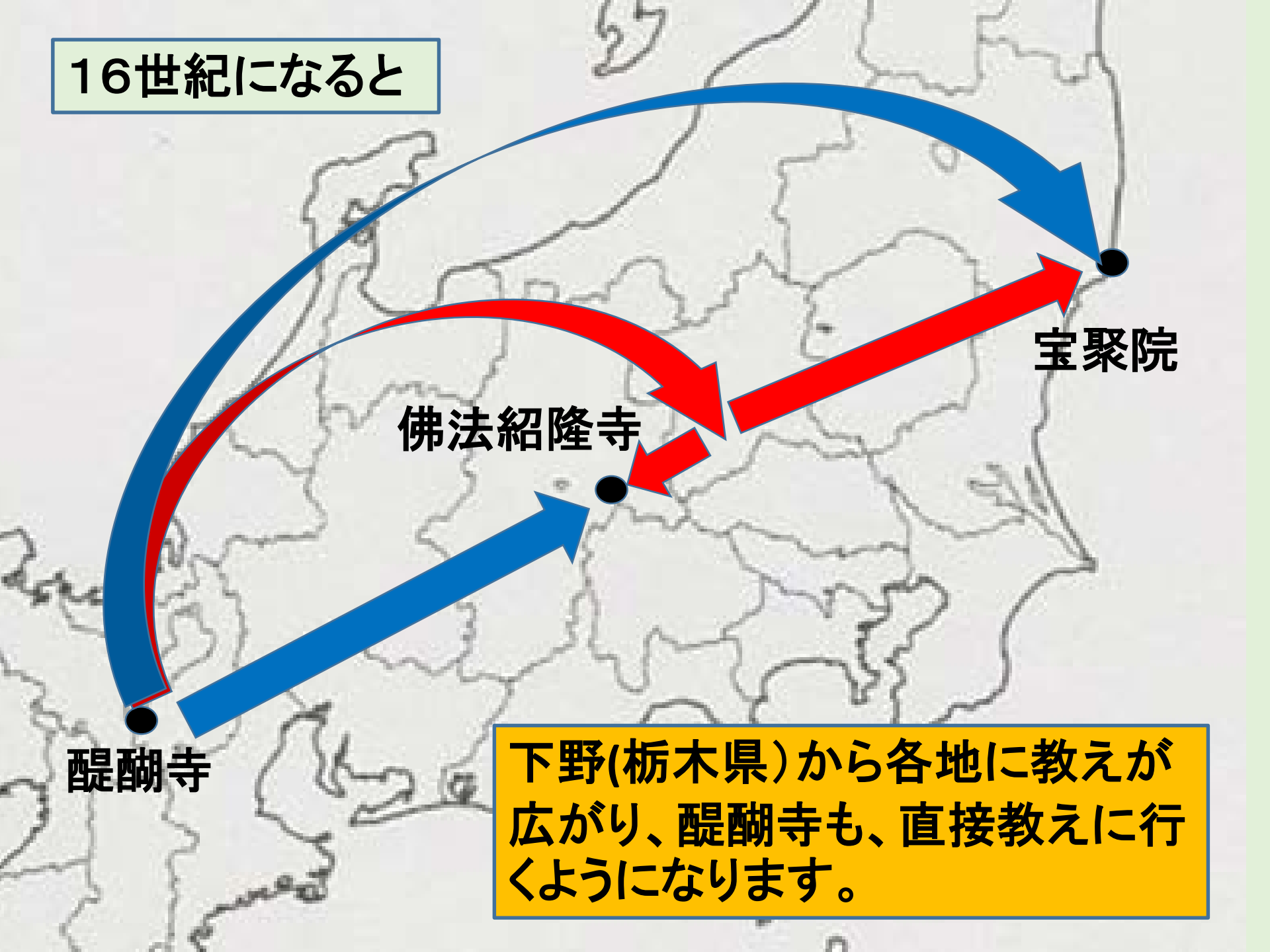
16世紀になると

醍醐寺

佛法紹隆寺

宝聚院

下野(栃木県)から各地に教えが
広がり、醍醐寺も、直接教えに行
くようになります。



知のネットワークが醸成していくと、

地域において新たな知の形成・発信がなされ、知の往還がおきることになります。

宝聚院



薬王寺

佛法紹隆寺



醍醐寺



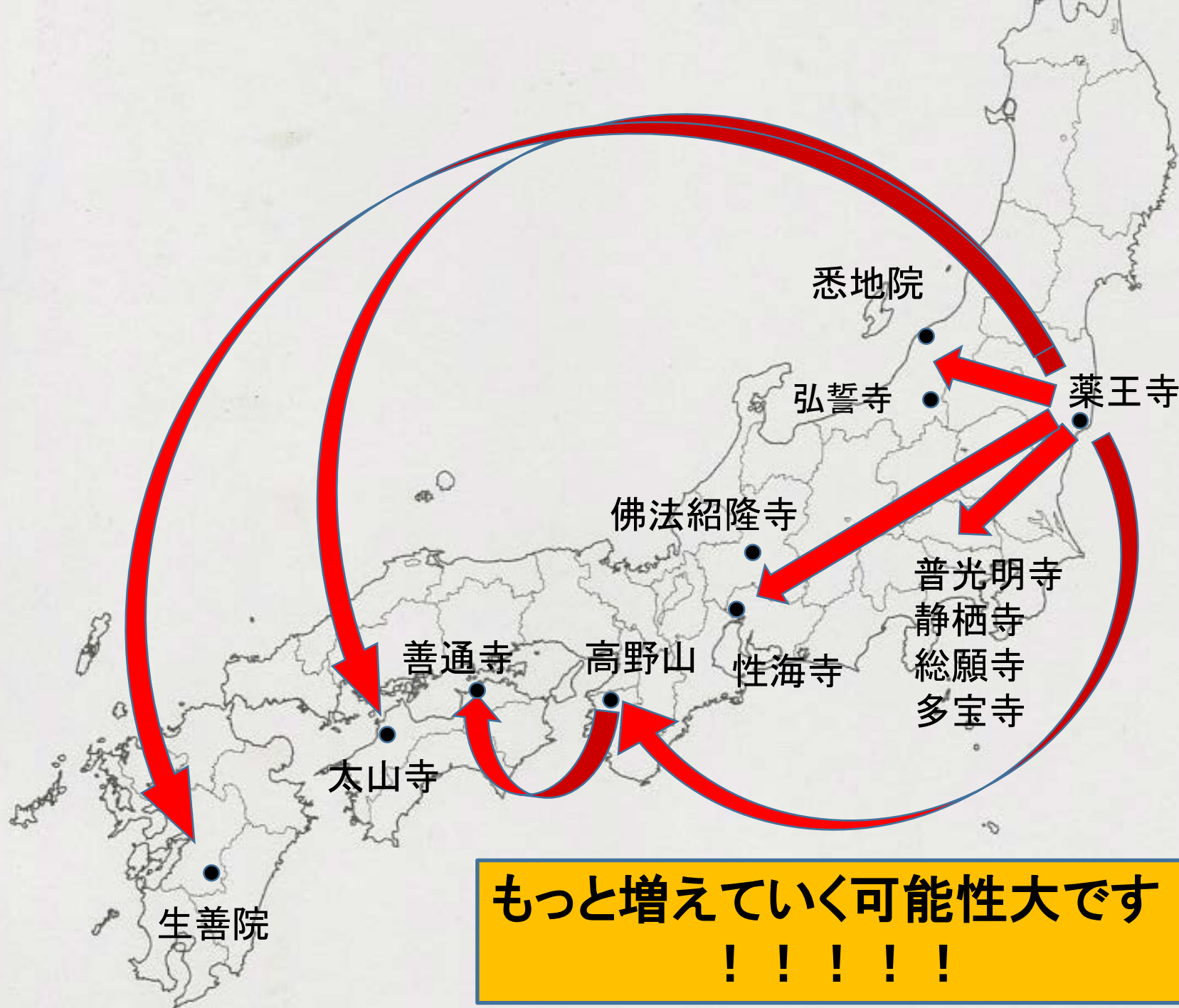
たとえば、16世紀後半、いわきの地に、純瑜という大学僧が現れます。

純瑜(1521-1582)は、
磐城薬王寺第8世です。
磐城に生まれ、薬王寺で
出家。後に、根来寺、高野
山、醍醐寺などで学問に
励み、薬王寺に帰山の後、
『糸玉抄』(お坊さんが最
初に修行するお祈りの注
釈書)、『糸玉集』(お坊さ
んになる儀式の次第につ
いての注釈書)などを執筆
しました。



『糸玉集』(佛法紹隆寺蔵)

両書は、とても人気だったようで、宝聚院、佛法紹隆寺、
善通寺の他、10箇寺で所蔵が確認できます。



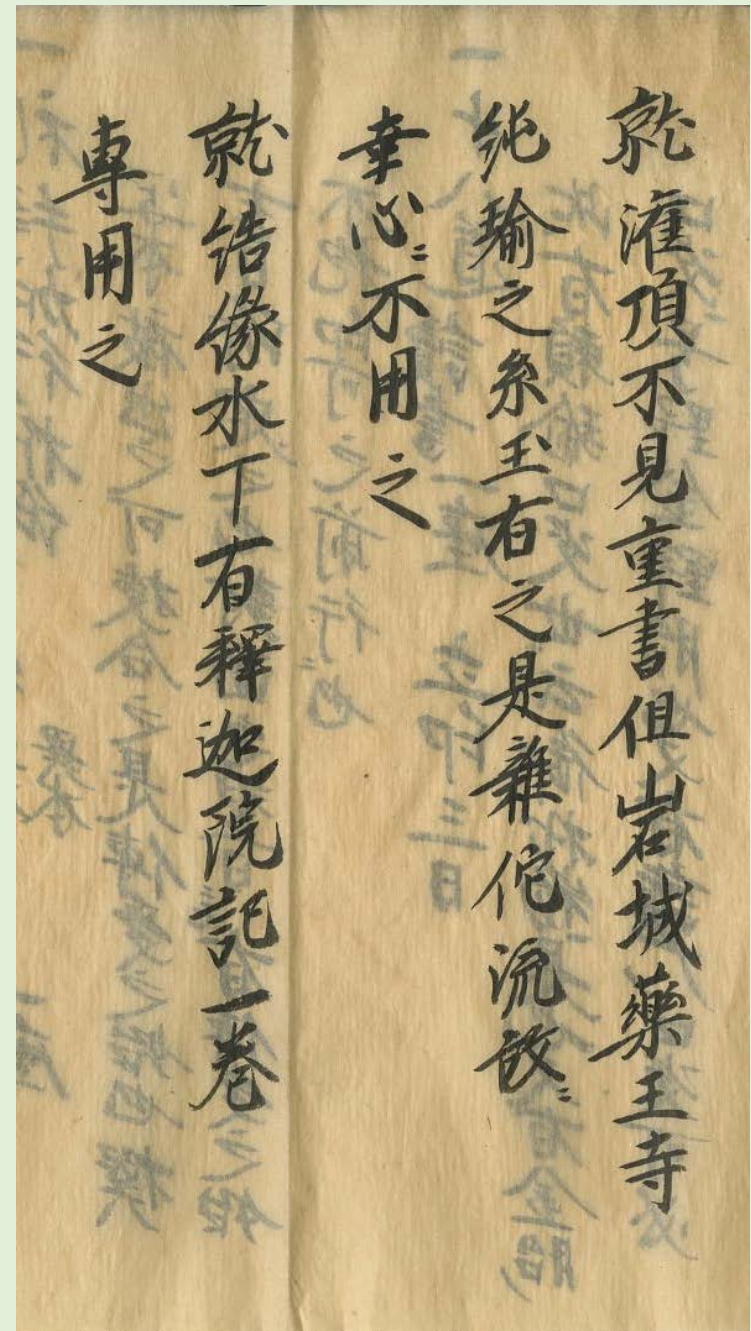
もっと増えていく可能性大です
！！！！！！

佛法紹隆寺の資料
『初住伝授目録並
重書用不之事』で
す。

醍醐寺で初めて勉
強するお坊さんに、
『糸玉集』は、用い
てはいけないと戒
めています。

逆に、よく読まれて
いたことがわかりま
すね。

就灌頂不見重書但岩城薬王寺／純瑜之
糸玉有之是雜佗流故／幸心不用之／就
結縁灌頂有釈迦院記一卷／專用之



5. 資料の電子化・共有による研究の展望と課題

今回お話をさせていただいたのは、

真言宗の一流派(72流とも100余流とも)の、
特定の時代、地域でのことです。

他流派、他宗(天台、浄土、禅など)の情報が加わり、
分析ができれば、

知の動態を可視化すること
ができます。

そのためには、以下の課題があります。

1. 目録などの電子化と共有化

→そもそも、どのような目録が出ているのか、把握できていない

2. 画像の電子化と共有化

→研究者が調査できる寺院は限られている。

→1000点以上の蔵書量であれば、3、4箇所が限界。

→研究者だけではなく、寺院にとっても助けとなる。住職1人しかいないので、閲覧希望には応えられない。

→国文学研究資料館の「**歴史的典籍NW事業**」は、規模が縮小し、寺社資料の電子化・共有という観点では、残念な結果に終わった。

日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画 (歴史的典籍NW事業)

「歴史的典籍NW事業」は、国文学研究資料館が中心となって、国内外の大学等と連携し、「日本語の歴史的典籍」に関する国際共同研究ネットワークを構築することを目的としています。「日本語の歴史的典籍」には、あらゆる分野の書物が含まれており、研究分野は人文科学全体、さらには自然科学系の諸分野にも及ぶことから、それぞれの分野における研究の深化はもちろんのこと、異分野を融合させた研究の展開も期待されます。また、本計画においては、研究基盤整備として、「日本語の歴史的典籍」約30万点を画像データ化し、既存の書誌情報データベースと統合させた「日本語の歴史的典籍データベース」の構築も行うこととしています。本計画の実施にあたり、拠点大学として国内の20大学に参画いただくほか、国文学研究資料館の学術交流協定機関を中心とした海外の大学・研究機関等とも連携を行う予定です。

<https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/plans.html>

当初は、大学だけではなく、調査寺院等までも視野に入れていた。
→宝聚院、佛法紹隆寺、如来寺の蔵書について、内々に打診があった。

Code4Libの皆さんと考えてみたいことなど

1. 電子化と共有化の手法として

→手書きカードにも意味はあるが、調査開始時から環境は変わってきている。最初からデータ入力でもよいのではないか。

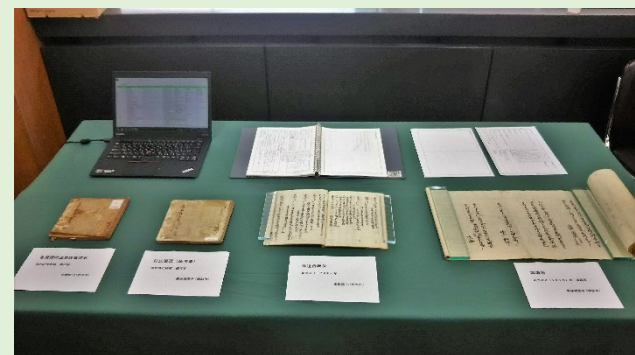
入力できないことは、画像で撮っておけばよいのではないか。

→多くの人が参加できて、それぞれの地域で進めていける手法は？

→データをオープン化するには？

2. 資料、調査カード、入力データ展示

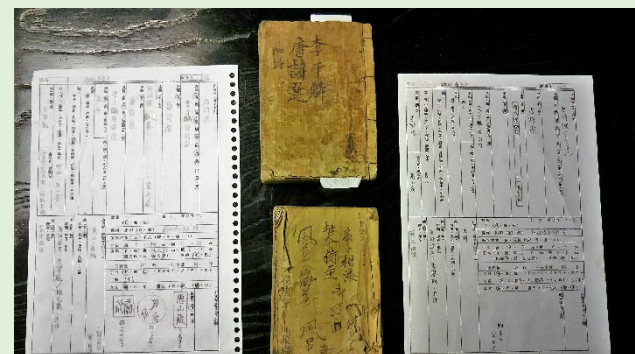
→休憩時間に見てみてください。



3. 佛法紹隆寺でワークショップを実施予定

→2018年10月20日(土)～21日(日)

詳細はFacebook等で周知



参考文献

- 渡辺匡一「仏法紹隆寺覚え書き」,「内陸文化研究」3, 2004年
- 同「光国関係資料から見る善通寺蔵書形成の一齣」,『古典形成の基盤としての中世史料の研究』,国文学研究資料館, 2006年
- 同「法の道を伝える僧侶たち」,『佛法紹隆寺開創千二百年記念誌』,佛法紹隆寺, 2006年
- 同「地域寺院と資料学」,中世文学会編『中世文学研究は日本文化を解明できるか 中世文学会創設50周年記念シンポジウム「中世文学研究の過去・現在・未来」の記録』,笠間書院, 2006年
- 同「関東元祖俊海法印」,『中世文学と寺院資料』,竹林舎, 2010年
- 同「真言宗以前一諏訪における鎌倉～南北朝期の寺院展開」,『諏訪信仰の中世』,三弥井書店, 2015年
- 同「寺院資料調査と文学研究」,「仏教文学」42, 仏教文学会, 2017年